

高三の日記より (高校三年秋)

一週間程前から弓をやり出した。これを一生懸命やり、自分の精神の発達に役立たせたい。今日も5時まで練習をした。

帰りの電車の中で非常に自分の為になることが有った。MとNの話を聞いていたが、C組では異性との交際論議をやっているらしい。その話を聞いていると、自分の金玉の無さを痛感した。しかし、自分はこう言う人間に環境によって作られた。消極的な自分だけイイ子になろうとする様な性質。そのおかげで love letter も書けない様な人間になってしまった。(これについては、7月ころから出す、出さないと言う二者の対立が続いた。しかし、現在でも決着はついていない。) Mは人間的にも出来ている。俺はまだ頭の中の脳細胞をみがかねばだめだ！自分の人間的低さ、人間的弱さ、感傷的過ぎ、自分の欠点が又良い所も有るかも知れん。しかし、自分の事は自分で理解出来ねば話にならん

自分の性質で良くしたい所が色々有る

- ・ 性質、精神の安定、落ち着きをつけ
にゃーいかん
- ・ もう少し積極的になれ
- ・ もう少し×2、気持ちを大きく持て
- ・ 自分だけ良い子になろうと思うな

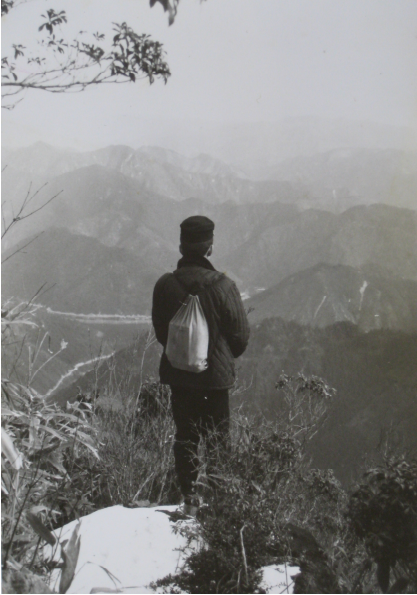
俺は劣等感のかたまりか

自分はそうは思わない、しかし・・・・・・・・



高校弓道場にて

宇連山頂上にて



昭和40年1月（高校卒業直前）

長い長い ダムの湖岸を歩き
道なき道を歩き 沢をよじ登り
苦勞を重ねた 真冬の山登り
頂上からの 眺めの先には 明神山
まるで 空の上から 眺めるような
私を 山の虜にした 一瞬！

63才の春に思う(2010.4)

高校時代が半世紀近い過去になり、本当に遠い昔になってしまった。
宗教論争に明け暮れながら、恋の悩みに悶々としていた私には、この三年間がつい先日のように頭を駆け巡る。宗教論争では負けないように学習をしたが、恋や愛には優柔不断で、未熟で、自分に自信が持てなかった時代だった。悩み多き時代ではあったが、実り多き三年間だった。